

## ■H29.11.7 市長定例記者会見内容

日時 平成29年11月7日(火)午前11時～

場所 庁議室

出席 市長、副市長、市政推進調整監、企画振興部長、健康福祉部長、商工観光部長、政策推進課長、市長公室政策参与、市長公室長  
酒田記者クラブ 7社(毎日新聞、山形新聞、荘内日報、読売新聞、朝日新聞、河北新報、TUY)

## ■内容

### 1. 記者発表事項

【なし】

### 2. フリー質問

#### 【①衆院選・市議選の所感】

記者／衆院選では、支援した候補が圧勝し、市議選は新人が6人当選した。所感を伺いたい。

市長／衆院選は、これまでも国とのパイプを訴えてきた。それを支援してくれた加藤氏が当選したのはうれしく、市の課題を解決することにはずみがつくので、よかったなと思っている。加藤先生には国政の場で、地域のために頑張っていただきたい。

市議選は35人立候補した。新人の方が多かったのは、市政に対して興味を持って、自分が参加してみたいと思ってくれたのだと思うので、いいことだと思う。投票率も3ポイントあがった。厳しい選挙だったと思うが、市としてはいい流れでの選挙だったと評価している。今後どのような会派構成になるかはわからないが、地域の力を示すベクトルが最大になるような会派ができるといい。衆院選で応援する候補が違うという意味では、市議会の会派の方向性がひとつにまとまっているわけではなかった。市議会としても、酒田のまちづくりに最大限の力が発揮できるようになってほしい。

記者／鶴岡市長選。榎本氏落選による今後の庄内地方の動向と影響は。

市長／市長になってから、庄内のために一緒にがんばろうと、榎本氏がリーダーになってがんばってきたので応援した。鶴岡市民の選択で市長が代わったということ。しかし、この地域の課題はみんなでもとまって解決の道を探す、行動を起こすということは変わらない。引き続きこれからも一緒に庄内発展のために頑張っていきたいし、酒田だ鶴岡だの時代は終わった。他の3町もいろいろな課題を共有しつつ、一緒に課題にぶつかっていかないと課題は解決しない。情報交換をしながら、なるべくおなじベクトルで力を合わせてがんばっていきたい。

記者／先日の要望活動などで同席したか。

市長／皆川市長と最初に会ったのは県政懇談会のとき。昨日、道路関係の要望で一緒にさせていただいた。非常にまじめな方という印象。これから腹を割って話していく中で信頼関係が築けて行くと思うので、3町の首長と一緒にこれからいろいろ取り組んでいきたい。

記者／庄内開発協議会や庄内空港利用促進協議会など、既存の枠組み内での変更は。

市長／鶴岡市長が会長や理事長になっているところの残任期間は引き続き皆川氏にやっていただくことになるだろう。改選期を迎えるものは協議して進めて行く。

### 【②鶴岡南・北高統合への考え】

記者／中高一貫校の設立について、どのような考えか。

市長／県の計画については事前に教育庁が説明に来られたので、中身は承知している。高校の再編は、酒田が一番県内で早くやらせていただいた。今回は鶴岡田川地区の再編なので、粛々と進めていただければと思い、特に意見は言わなかったところ。高校再編は酒田が率先したので、ちょっと遅いかなとは思ったが。

しかし中高一貫校は、それは高校再編とは別問題だと思うと、一緒にした県の案について私は受け入れがたいという話を意見として伝えている。同じ学区なので、県立中学校をつくるということについて、酒田への影響は無視できないものがあるし、地域のなかで議論してから県で判断すべきものではないかと申し上げた。東根市に東桜学館があるが、中高一貫校の課題があると聞いている。鶴岡地域ありきで議論が進むことではなく、県としてはもっと丁寧な進め方が必要ではないかと思う。子どもが減るなかで、県立中学校はそれなりに市町村の財政に影響を及ぼし、単純な話ではない。中高一貫高校が子どもの進路に有用ならば、この地域からも人材が流れることになる。抱き合わせで進めるやり方は、高校再編にいち早く応じた地域からするとちょっと納得がいかないという思いがあり、そのことはしっかりと県の教育庁に伝えた。同じ時期に光陵高校の工業科を1クラス減らすと言われており、酒田はものづくりで地域を発展させようといういい流れが生まれているなかで言われたため、なおのこと今回の件は意識して捉えたところもある。もう少し地域全体の教育を考えた進め方を考えてもらいたい。

記者／教育庁へは、意見はいつ頃伝えたか。

市長／県議会に示す前、報道に出る前に説明に来られた。そのときに伝えている。決定権は市町村長にはなく、最終判断は県になると思うが。にもかかわらず公表したということは、酒田市長の意見は置いておいてということ判断されたのだろう。

記者／県は来年1月に策定と公表しているが、その時期については。

市長／高校再編はいいと思うが、中高一貫校はいかがなものかと伝えている。

記者／今後県からの市に対する説明の予定は。

市長／今のところ連絡はない。

記者／県が来たのは庄内地域だからということか。

市長／そうだと思う。

記者／鶴岡に中高一貫校ができると、酒田の子どもが受験して鶴岡に離れるということか。

市長／鶴岡南は庄内中学として歴史も古く、この地域の教育水準をリードしてきたところだと思う。進学校では鶴岡南と酒田東。今でも酒田から鶴岡南に通う子はいるが、鶴岡から酒田東に通う子はあまりいない。小中学校の教育は、地元への愛着など地元意識を醸成する大切な時期。その時期になるべくだったら地元の中学校で教育して、地元から世界に羽ばたいてもらいたいという意識はある。庄内一本というところと違うといわれるかもしれないが、子どもを育てるには「庄内人」となるには意識はまだ早く、住んでいる酒田・鶴岡という範囲。現実問題として、市町村という枠があるのは県にもわかってもらいたい。県は庄内・最上・村山・置賜などの枠で捉えている。庄内という地域の特性からすると、酒田の人が鶴岡に流れることで、酒田の学力水準が下がるということも危惧されるのは首長として好ましくない。作るなら、酒田にも中高一貫校を作ってもらえたら。

東桜学館のメリットや課題がまだ出てきていないのではないかという意見もある。それがわかってから中高一貫校を提案してもいいのではという意見もあった。また、どこに作るかを地域でもっと議論してもいいのでは。何となくそこありきで進んでいるような気がする。公益大のときも、庄内地域に作るという方針があって、どこに作るかはそれぞれの地域が手を上げて、今の場所に決定した過程がある。今回もそういう対応を取ってもよかったのではないかと伝えている。

記者／光陵高校ができるときに、中高一貫校を鶴岡にという話は内々であったような。

市長／中高一貫校という話はなかった。

記者／鶴岡市の重要要望事項に中高一貫校があったが、酒田にはなかった。ということは、地域としてある程度のコンセンサスができていたわけではないのか。

市長／私が市長になってからはそういう意識はない。公益大のときは、酒田に作ってほしいとずっと要望していたが、県が作るなら他の市町村も手を上げる権利はあった。何らかの働きかけが鶴岡市からあったのかもしれないが、正式に作るのであれば、議論を

踏まえて地元が納得して作ることが、県民本位の県政ではないかという思いがある。

記者／国のほうからは、進学校を中高一貫校にするのはやめてほしいと出ている。地元の鶴岡からもまさか鶴岡南がという声もあった。

市長／何をもって進学校というかはあるが、狭いものの見方という感じはする。もっと人間の能力は幅広く見るべきだと思う。この地域ではものづくりは大切だと思うので、光陵高校のクラス減は地域にとって痛手である。